

# 白十字八国苑 開設25周年を迎えて



## 白十字ホーム ホーム長 西岡 修

白十字八国苑が開設して、25周年を迎えることができました。開設準備に関わった職員の1人として、あっという間の、いろいろな思い出もある25周年でありました。

利用者のみなさま、ご家族、地域のみなさまをはじめとして、多くの方々のご理解とお力添えがあったからこそ25周年であることに、感謝を申し上げます。

また日々の運営に、心を込めて取り組んできた歴代の職員の地道な積み重ねがあってこそ、25周年であることに感謝したいと思います。

白十字八国苑は、東村山市内の高齢者在宅サービスセンター第1号として、平成2年6月に開設をしました。現在、市内にはたくさんのデイサービスセンターが開設されています。さらに地域包括ケアということが、国、都そして東村山市の施策として大きく取り上げられています。実は当時すでにこの考え方の基になる事業としてスタートをしました。

いまから40年近く前に、東京都は全国に先駆けて、デイサービス事業を開始し、昭和61年に、地域居包括支援セン

ターにつながる構想で、特別養護老人ホームに併設する形が多機能型デイサービスとして「高齢者在宅サービスセンター」がスタートしています。

都が始めたデイサービスについては、高齢者が在宅で暮らし続ける上で、とても重要な事業であることが理解されるようになりました。国もそのことに気づき、全国一律の制度として、デイサービス事業を始めることになりました。しかし、東京都の高齢者在宅サービスセンターは、デイサービスの役割に加えて、地域で暮らす高齢者や家族の方たちの幅広い生活面に目を向け、多機能の在宅サービス拠点として機能することを目指したといえます。そういう意味で、国の事業の1歩も2歩も先を行くものでした。

白十字八国苑もまた、今では当たり前ですが、各戸の玄関までお迎えに行く送迎、理学療法士や作業療法士によるリハビリ、その後、当時の都立東村山老人医療センター（現、北部医療センター）の言語聴覚士と連携した地域リハビリ、八国苑にみえた方たちが、それぞれのニーズに応じた活動を行う「ラウンジプログラム」の開発と発展、夕食を食べられてから帰宅する「延長デイ」の実施など、当時としては、先駆的で斬新な取り組みに挑戦してきました。

白十字八国苑の利用者のみなさまも、お体が不自由で重い支援を必要とされている方たちが、多く利用されるようになっていきます。制度が医療的な方向に動いているような状況もみられます。だからこそ、白十字八国苑は、在宅の高齢者のみなさまにとって、地域社会との接点となり、世代を超えた社会参加の機会を通じて、いきいきとした活力が湧き出るよ

うな支援に一層取り組んでほしいと思います。

25周年を迎えるにあたって、白十字八国苑を利用されるみなさまが、病気や障がいによって、隠されてしまった力を取り戻し、さらに新たな力を創り出していくことができるような、工夫に満ちた、ワクワクする活動や支援の取り組みを期待しています。

開設25周年を迎えて、改めてデイサービスの原点に立ち返るとともに、地域の、時代の要請に積極的に応えていくことにも取り組んでほしいと、強く願うものです。

